

おおだて 市立総合病院・市立扇田病院

病院だより

第14号

おおだて病院だよりは、
市民・患者さんと
市立総合病院・市立扇田病院を
つなぐ広報誌です

2015.1

No.14

発行者：大館市病院事業管理者 佐々木睦男
編集：大館市立総合病院 広報委員会
住所：大館市豊町3-1(総合)
大館市比内町扇田字本道端7-1(扇田)
電話：0186-42-5370(総合) 0186-55-1255(扇田)
URL：<http://www.odate-hp.odate.akita.jp>(総合)
<http://www.oogita-hp.jp>(扇田)

新春の澄みわたる青空のように
穏やかな一年になりますように……



謹賀新年



市立総合病院
院長
ひろし 博
たて 館
おか 岡

新年明けましておめでとございます。

昨年、病院として最大の事業であった電子カルテ稼働に際しては、救急外来を二日間休診したほか、機器の操作等の不慣れのため、一部で待ち時間が長くなるなどご不便をおかけしたことについて、改めてお詫びするとともに皆様のご協力に感謝申し上げます。

このように始まった電子カルテですが、どのような利便性があるのでしょうか。例えば、今までは患者さん一人に対し、診療科ごとにカルテを作成していましたが、電子カルテでは一人一カルテに集約することができ、また、各科で行われている検査、投薬等のデータを電子カルテ上で即座に得ることができ、各職種間の情報の共有化が図られ、いわゆるチーム医療に取り組み易くなるというメリットが挙げられます。このことは我々が常に求め、追い続けなければいけない医療の質の向上に繋がるものです。

最近の医師不足を含めた医療を取り巻く状況は厳しいものがありますが、今年も前を向いて、一步一步、歩んで行きたいと思っております。よろしくご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



市立扇田病院
院長
おおもと 直樹
おお 大

新年あけましておめでとございます。平成二十六年は全国各地で大雨、土砂崩れ、火山の噴火といった大規模な災害が発生し、自然の力の大きさ、それと同時に一人の人間の小ささを痛感しました。少子高齢化による人口減少問題、政治や外交、経済の停滞など、日本全体でも課題は山積していますが、医療の分野も同様で、医師の偏在による地域医療の担い手不足という問題は未だ解決の兆しが見えておりません。

当院は「地域の皆様の心の支えになる病院」を目指して日々診療を行っていますが、医療資源の絶対的な不足は気持ちや努力では補いきれません。昨今の医療は、個々の病院がそれぞれに医療を行う「病院完結型」ではなく、一次医療機関と二次中核病院が役割を分担して地域全体の医療を形作る「地域完結型」が理想とされており、そのためには医療機関の良好な連携だけでなく、市民の皆様の医療に対するご理解、ご協力が必要となります。

〃病院は市民の健康を、市民は病院の存在を支え合い、大館市の医療を共に守っていきましよう。

総合病院 新任医師紹介



泌尿器科
おいかわ まさあき
及川 真亮 先生
よろしく申し上げます。



産婦人科
たむら りょうすけ
田村 良介 先生
大館市の産婦人科医療に貢献できるように頑張ります。

紹介 します

神経精神科



近年、メンタルヘルス（精神的健康）に関する問題が、多くのメディアで取り上げられるようになりました。厚労省は、これまでのがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4大疾病に新たに精神疾患を加えて「5大疾病」とし、平成25年度以降の医療計画に反映しました。それに伴い、精神疾患が幅広い世代の人に起こりうる問題であることが認識されるようになってきております。

どんなに忍耐強く頑張り屋な人でも、過剰な仕事や我慢を繰り返せば身体や精神に不具合を引き起こし、社会生活上の困難を感じるようになります。また老いは全ての人に訪れ、認知機能に影響を及ぼします。精神科疾患が自分や身近な人にも起こりうる問題であることが理解され、地域でメンタルヘルスの問題をより優しく見守れるようになることを切に願っております。

当院精神科では、精神科救急を受け持ちながら、外来および入院治療、デイ・ケア、訪問看護を通して急性期から慢性期、病気の再燃予防まで対応できるように鋭意努力している次第です。

しかしながら、現在常勤として働ける精神科医師が2名となっており、新患受付日を月、火、金曜とし原則として紹介状持参の患者および緊急性の高い患者に制限しております（医師の不在などによる休診のお知らせは病院ホームページをご覧ください）。地域および関係各所の皆様にはご迷惑をおかけし誠に遺憾ではありますが、何卒御理解の程宜しくお願い致します。

（文責 神経精神科部長 中神 卓）

入院患者さんへの 面会の制限について

インフルエンザやノロウイルスの流行期に入ったため、入院患者さんへの面会を制限しています。

面会は原則としてご家族を中心とし、マスクの着用をお願いしています。また、小さいお子さんや発熱、せき、のどの痛み、吐き気、嘔吐等の症状があり体調不良のかた、所属する学校や職場でインフルエンザやノロウイルスが流行しているかたは面会をご遠慮していただくようご協力をお願いします。



がん診療市民医学講座



弘前大学大学院
泌尿器科学講座
教授 大山 力先生

昨年十月五日に、弘前大学大学院の大山 力先生を招き、「膀胱がん、前立腺がん」をテーマとして第九回がん診療市民医学講座を開催しました。
前立腺がん検診や、前立腺がん、膀胱がんの最新治療など、わかりやすくご講演いただき、当日は一四〇名を超える市民の皆様が参加しました。

膀胱がん、前立腺がんをテーマに開催

質問コーナーでは、二十件以上質問をいただきました。有意義な講座になりました。



認定看護師を紹介します！

認定看護師とは、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有すると日本看護協会が認定した看護師です。看護ケアの質の向上を図ることを目的とし、右のような3つの役割があります。

①実践：熟練した技術を用いた看護を実践する。

②指導：看護師に対し指導を行う。

③相談：専門内容についての相談に対応する。

現在、認定看護師には22の分野がありますが、当院には以下の4分野に7名の認定看護師が在籍しています。そのうち緩和ケア、皮膚・排泄ケア、感染管理の分野では、それぞれ1名ずつが専従の看護師として活動しています。



●がん化学療法看護(2名)

患者さんが安心・安全にがん治療を受けながら、自分らしい生活を送ることができるよう、より専門的な視点からサポートします。

●緩和ケア(3名)

患者さんとご家族の身体の痛みや心のつらさ等に寄り添い、希望に添った生活を送ることが出来るようにお手伝いします。

●皮膚・排泄ケア(1名)

床ずれなどの創傷ケアのほか、尿・便漏れ、人工肛門について専門的なケアを提供します。

●感染管理(1名)

院内で感染が広がらないように、手洗いや咳エチケット、消毒等の感染防止対策を実施しています。

私達、認定看護師は、患者さんの看護ケア向上に取り組んでいます。一人で悩まずにいつでもお近くのスタッフへご相談ください。



医療情報システムを更新しました。

総合病院では平成26年11月に電子カルテを導入し、医療情報システムを更新しました。システム更新により他科での診療、検査、処方などの情報共有、照会が可能となり、患者サービスの向上と、より安全で質の高いチーム医療の推進につながります。

なお、システムの更新に伴い、操作方法や運用が変更され、受付や診療に時間がかかる場合があります。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

「患者さんの声」より

当院に寄せられたご意見を、紹介していきます。

救急外来受診後の再受診の受付対応を見直してください。

救急外来を受診、点滴をし、痛み止めを処方され、翌日の再受診を指示されました。翌日に受診したところ、一般患者と同じ扱いで何時間も待たされました。前日救急受診しているのだから、予約患者扱いにすべきだと思います。救急外来の専門医ではない医師による診察で、症状が悪化したらどうするのですか。(昨年7月に投函されたかたのご意見)

病院から

ご意見ありがとうございます。当院では救急外来受診翌日の外来受診に際し、カルテが外来に届いた時点で内容を確認します。その後患者さんの体調などを確認し、場合によっては優先的に診察します。看護師から声がかからない時や、具合が悪い時には遠慮なくお声がけください。

今後も、より一層患者さんに寄り添った対応を心がけてまいります。

薬を変更するときにはしっかり説明してください。

処方薬が変更されましたが、明細書を見ると単価が2倍なうえ、ジェネリックに変更ができない薬でした。必要で変更された薬だとは思いますが、医療費が増えるのは大変です。検査や薬の変更については、患者にしっかりと説明して欲しいです。(昨年5月に投函されたかたのご意見)

病院から

ご意見ありがとうございます。急にお薬代が高くなったり、よくわからない検査料金を請求されたりしたら、不安や不信感を持たれることと思います。病状の改善のため、新薬の処方や新たな検査を行うことがあります。より効果的な治療を目指すために医療費の面まで考えが及ばないことがあるかもしれません。

患者さんには、治療について十分な説明を受け、それを理解したうえで、自らの選択と同意に基づく医療を受ける権利があります。わからないことや不安な気持ちは、遠慮なく医師にお伝えください。より詳しい説明を受けたり、一緒に解決の方法を考えたりすることができると思います。また、相談支援センターでは、各種制度や社会資源の活用などにより、医療費のみならず様々なご相談を承っています。お気軽にご相談ください。

職員の雰囲気がよく、療養環境が整っていました。

6病棟入院中です。主治医の先生を核として、まわりのスタッフがしっかり連絡、報告する様子が見られ、安心して療養できています。病棟の先生や職員のはきはきした応対や笑顔が患者を癒しています。これからも、ベテランから若い職員の方まで、互いに教え合い、助け合って私たち患者のために貢献して下さることを期待しています。(昨年4月に投函されたかたのご意見)

病院から

心温まるご意見ありがとうございます。私たち職員にとって、患者さんからのこのようなお言葉は大変励みになります。これからも安心・安全な信頼の得られる医療を目指して、職員一同頑張っています。

初めての出産で不安でしたが、助産師さんのおかげで安心できました。

初めての出産のため、不安な気持ちで入院しました。どのスタッフも親切で丁寧な対応で、短期間の入院でしたが、この病院に入院して本当によかったなと思いました。助産師さん一人ひとりの知識がしっかりとっていて、どんな小さなことでも丁寧に指導してくれました。同じ女性として尊敬できるかたばかりで、この機会があったらまたこの病院にお世話になりたいと思います。(昨年6月に投函されたかたのご意見)

病院から

初めてのお産で安心して入院生活を送っていただくことができ、大変うれしく思います。職員一同、これからも一層知識の習得に努め、今まで以上に患者さんの気持ちにしっかりと寄り添った看護を目指して参ります。

また、県北唯一の地域周産期母子医療センターとして、質の高い看護を提供できるよう、今後も努力して参りたいと思います。

扇田病院です!

臨床検査科



当検査室では、現在6名の技師が担当して患者さんのさまざまな臨床検査データを、「迅速かつ正確に!」をモットーに、担当医師へ報告するよう日々努力しています。

今回は、昨年度および今年度に更新された測定機器を紹介します。

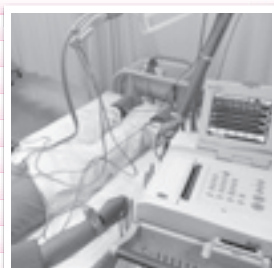
【便潜血測定装置】

便の中に血が混じっていないか調べる装置です。目的は大腸がんのスクリーニング(ふるい分け)です。この検査で陽性の場合、大腸にがんやポリープなどの出血の原因になる病変の存在が強く疑われますので、大腸内視鏡などの精密検査が必要になります。

【血圧脈波検査装置】

体の比較的太い動脈の硬さや詰まりがどうかを調べる装置です。両手足に血圧計を巻くような検査で、検査時間は10分程度です。糖尿病や高脂血症、高血圧などをお持ちのかたは動脈硬化が進行しやすいと言われておりますのでお勧めします。おおよその血管年齢も測定可能です。

どちらの検査も人間ドックで良く行われる検査ですが、外来で行うことも可能ですので、興味のあるかたはご相談ください。お待ちしております。



血圧脈波検査装置



便潜血測定装置

地域連携室を紹介します

地域連携室は、超高齢社会を迎え地域で必要とされている包括的ケアサービスの調整を行う要となる部門です。

地域の他病院や診療所、介護・福祉事業所と連携・協力し、患者さんが医療や介護福祉サービス等を上手に利用し、安心して住み慣れた地域で心おだやかな生活を続けられるように様々なお手伝いをしています。

例えば、

- ①急性期の医療機関から退院を勧められた場合に、病状が安定するまで入院できる「療養病棟」の受け入れ窓口
- ②かかりつけ医の先生が、入院が必要と判断した場合に病床を提供する「セミオープンベッド」の受付
- ③在宅で医療を受けながら療養生活を続けたい患者さんへの「訪問診察・訪問看護」サービスの調整
- ④在宅療養や介護サービス利用中の不安(病状の変化など)に関する、ケアマネージャーや介護事業所との連絡調整

など、医療と介護を総合的に利用して安心安全な療養生活を続けていただくために、当院が行う多様な医療サービスと地域で行われている医療介護サービスをつなぐ総合窓口の役割を担っています。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

☎地域連携室 ☎0186-55-1255



外来診療のご案内

医師の都合や手術などのため、休診や受付時間を変更する場合があります。

～総合病院～

受付時間	初診 午前 8:30～11:00	再来 午前 7:30～11:00
-------------	------------------	------------------

特段の記載がない場合は、上記の受付時間になります。

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考
呼吸器・循環器内科	新患	9:30まで	休診	呼吸器 新患 9:30まで 再来 11:00まで 循環器 休診	休診	9:30まで	新患は原則として紹介状が必要です。新患の受付については左表のとおりです。(注※)
	再来						
消化器・血液・腫瘍内科							新患は原則として紹介状が必要です。
内分泌・代謝 神経内科		甲状腺 診療		甲状腺 診療	10:00まで	10:00まで	新患は原則として紹介状が必要です。神経内科の受付は再来のみとなっています。
小児科							
神経精神科	新患	10:00まで	10:00まで	休診	休診	10:00まで	新患は原則として紹介状が必要です。新患の診察時間は14:00からとなります。(注※)
	再来						
外科							
産婦人科							
眼科	新患	10:00まで	9:30まで	10:00まで	休診	9:30まで	新患は原則として紹介状が必要です。
	再来				9:30まで		
耳鼻咽喉科							
整形外科		10:00まで(火曜日は再来のみ)					新患は原則として紹介状が必要です。専門外来は予約制。
泌尿器科		予約のみ					新患は原則として紹介状が必要です。
皮膚科				休診	再来予約のみ		木は再来予約のみの受付となります。
脳神経外科	新患	10:30まで					新患は原則として紹介状が必要です。
	再来						
放射線科		予約のみ	予約のみ	予約のみ		予約のみ	新患は木のみで紹介状が必要です。
歯科口腔外科・ 矯正歯科							再来は予約制。

(注※) 問診等の結果により後日改めての診察となる場合がありますのでご了承ください。

◎新患はできるだけ紹介状(診療情報提供書)の持参をお願いしています。

◎この表における紹介状とは、医療機関から発行される診療情報提供書を指します。

呼吸器・循環器内科 よりお知らせ	総合病院では、今年度呼吸器・循環器内科の常勤医師が2名減となり、現在は医師3名で診療にあたっています。そのため、呼吸器内科の入院診療や一部の検査について実施できない状況になっています。皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。
-----------------------------	--

～扇田病院～

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考
内科・外科	午前	8:30～11:00					
	午後	急患のみ					
	夕やけ(午後)	5:00～6:30	休診	5:00～6:30	休診	5:00～6:30	
整形外科	午前	休診	休診	休診	休診	8:30～11:00	
耳鼻咽喉科	午後	休診	1:00～3:00	休診	休診	休診	
眼科		休診					

●「もっともっと知ろう緩和ケア」を開催します

総合病院では市民の皆さんを対象に、緩和ケアの講演会を行っています。今年度は以下の日程での開催を予定していますのでお気軽にご参加ください。

日時 2月4日(水)、2月18日(水) 11:00～12:00
(講演会のほかポスターの掲示も行っています。)

場所 3階ギャラリー

●看護師奨学生を募集しています

大館市立病院(総合病院、扇田病院)では、1月30日(金)まで、平成27年度看護師奨学生を募集しています。看護師を養成する学校等に入学予定または在学中で、卒業後に大館市立病院へ勤務する意思を有するあなたが募集の対象となります。詳しくは総合病院ホームページをご覧ください。ただか、総合病院総務課までお問い合わせください。

総合病院 総務課 ☎0186-42-5370

総合病院ホームページ <http://www.odate-hp.odate.akita.jp>

病院見学会を開催しました



昨年11月8日に、市内の高校1、2年生を対象とした病院見学会を開催しました。この見学会は、様々な職種の職員が協力して医療を提供している病院という職場について興味を持ってもらうことで、地域から将来の医療従事者を育て、確保することを目的として昨年度に引き続き開催したものです。

今回は、弘前大学大学院医学研究科に設置している「大館・北秋田地域医療推進学講座」の事業として、弘前大学医学部の医師による模擬講義なども行われ、当日は66名が参加しました。



高校生



メディカルキャンプ

秋田県が主催する「高校生メディカルキャンプ」が、当院を会場に昨年10月31日に開催されました。

医師確保対策として、将来医師を志す高校生を対象に秋田県が毎年行っているものです。高校生5名が参加し、現役医師の講話や医療機器の説明を受けるなど医師の仕事についての理解を深める良い機会になったようです。



編集
後記

明けましておめでとうございます。新たな1年が始まるとともに、白鳥が舞う寒い季節となりました。表紙の写真は市内豊町の富樫 弘さんに提供していただきました。ありがとうございます。インフルエンザも流行期に入り心配ですが、この時期は転倒して骨折されるかたも多くなります。屋外のみならず、屋内の床にもご注意ください。

今号も充実の内容となっていますので、お正月休みのお供にしていただければ幸いです。

(編集委員長 田辺 壽太郎)